

第1回 研究計画を立てる

西岡 伸紀（兵庫教育大学大学院 教授）

今回から、「学校保健分野における研究の進め方：ここが聞いてみたかったところ」を連載することとなりました。内容が多岐にわたる研究の計画に対しては、自分の力不足も感じるのですが、自分の研究の取組や学生指導の経験から述べてみます。不備があるかもしれませんが、後でご執筆の先生方がカバーしてくださるものと思います。この連載が、皆さんの近畿学校保健学会等での発表や論文作成の一助になれば幸いです。なお、以下では、研究状況の変化等を踏まえ、執筆時の内容を修正しました。ご承知おきください。

1) 「研究」はなぜ必要か？

「研究」に対しては、敷居が高く取り組みづらい印象があるかもしれません。私自身、学会発表の抄録作成にも苦勞します。しかし、学校保健関係者にはできるだけ発表していただきたいと考えます。というのは、学校保健においては、多様な課題が解決を求められています。それらの課題を最もよく解決できるのは、あるいは、解決の必要を最も強く求められているのは、当事者である私たちであると考えられるためです。また、研究により、解決について意見交換されることにより、課題がよりよく解決され、解決の方策が広がっていくものと思います。

発表される研究には、必ずしも輝かしい成果を得たものである必要はありません。すばらしい研究が発表されることに異論はありませんが、地味な研究でも、それが、先人の成果を踏まえた明確なものであれば、読者に有用な情報になります。研究課題の解決は、城の石垣を積み重ねるようなもので、一つ一つの研究が積み上げられることが、全体として大きな解決につながっていきます。そのためにも、自分の研究が、築かれてきた石垣（関連研究の成果）の上に、どのように積み上げられるのか明確に示したいものです。それにより、過去の研究がどのように活かされ、後に続く人に何が期待されるのか、

理解されます。よい成果を得るために努力することは必要ですが、得られた事実に基づき、自然体で発表すればよいと考えます。

2) 研究課題の設定、明確化

学校保健に関する現実の課題は様々挙げられます。指導してきた大学院生が考えた当初の課題を挙げてみますと、例えば、「インフルエンザの流行に備え手洗いを指導するが、子どもたちはあまり実行しない。手洗いの実行には、学校や家庭の指導を含めて何が関係するのか。」

「健康観察はどのように行われているのか。一般教員は健康観察をどのようにとらえているのか。」「中学校保健学習の小单元には、指導のしやすいものと指導しにくいものがあるようだ。指導の難易の実態はどうか。また、指導の難易は何によって決まるのか。」「ライフスキル教育を推進してきたが、異動してきた教員には理解が難しい。ライフスキル教育について簡潔にわかりやすく説明したい。どのような内容や方法が考えられるか。」などです。専門領域によっては、大きく異なる課題も見られることでしょう。

このように意識された課題を、研究を通して解決したいものです。ただ、以上の課題はそのまま研究課題になるわけではありません。というのは、意識された課題は、感覚的であったり、整理されていなかったり、解決が不可能であったりする場合があるためです。

研究課題には、例えば以下のようなことが必要となります。

まず、課題が明確で具体的であることです。単に意識された状態に留まる課題では、例えば、漠然としていたり複数の課題が含まれていたりする場合があります。上記の「手洗い」の場合、関連文献を読んだり、周囲と意見交換をしたりするなどして、最終的には、子どもの手洗いの実態、それらと保護者の手洗い指導の状況や手洗いの状況との関連を研究課題としまし

た。先行研究を踏まえると、課題の明確さや具体性が高まります。

次に、明確さと関係しますが、課題は検証可能であることが必要です。すなわち、何について調べるのかを明確にして、検証のための資料やデータを収集することができ、検証結果が明確にされるものであることが求められます。

なお、既に検証されている課題には、取り組む必要はありません。研究には独自性が求められるためです。それでもなお、類似の研究に取り組みたいのであれば、先行研究に示されている「残された課題」や「今後の展望」を参考に、検証済みの研究を発展させた課題に取り組むべきでしょう。

3) 関連する資料の収集

上記に関わり、資料（論文を含む）の収集について具体的に述べます。資料収集は、課題に対してより深く理解したり、課題を明確にしたりするために、また、課題をより洗練させるために必要です。我々が考えるほとんどの研究課題は、過去に誰かが研究しています。先人の成果を生かして研究すれば、より質の高い研究になりますし、その課題に関わる一連の研究が前進することになります。

資料収集では、文献のデータベースが有用です。私は、CiNii、医学中央雑誌、Google Scholarなどをよく使います。いずれもインターネットで利用できます。それらのデータベースの使い方もインターネットで参照できます。医学中央雑誌は原則有料ですが、デモ版は無料です。画面に、研究課題に関するキーワードを入れると該当する論文などが出てきます。最近では、論文の公開が進んでおり、無料で入手できることも多くなりました。なお、画面に表示された論文等には、自分の課題と無関係なものもあります。論文の要約を読むなどして、関係する論文等を選んでください。

また、論文や書籍にある参考文献も利用できます。資料がやや古くなるかもしれませんが、研究課題に直に関わる情報が得られます。

4) 収集した資料の分析、整理

資料に対しては、内容を理解したり批判的に

分析したりする必要があります。分析の仕方は目的により変わりますが、論文の場合、まずは、その研究の概要をつかむこと、すなわち、どのような目的で、何を対象や材料として、どのような結果が得られ、それをどう解釈したか、どのような課題が残されたりしているのか、がわかればよいと思います。さらには、序論において研究課題に関わる背景や経緯を理解したり、研究方法を見て自分の研究方法を改善したり、結果の数値などを丁寧に把握したり、考察の仕方や内容を理解したりするなど様々利用できます。

これらの分析結果は、論文のタイトル、発表者、雑誌名、巻号、ページ番号などとともに、ノートに書き留めたり、パソコンに入力しておいたりします。後で見直したり、研究をまとめたりする際に役立ちます。

5) 研究目的の明確化

以上の段階まで至ると、研究目的が明確になってきます。何を、どこまで明らかにするかが具体化されます。研究目的は、当初よりイメージされているでしょうが、先行研究を分析整理することにより、洗練され明確になります。なお、研究目的では、研究のねらいとする項目（変数等）と、それに関連する項目（変数等）を整理してください。また、可能ならば仮説として示してください。

6) 研究計画の作成

上記の内容は、研究の背景と目的にあたるもので、それ自体研究計画に含まれますが、ここでは、それらも包括した研究計画の作成について取り上げます。

研究には段取りがあり、進めるには時間を要します。自分の研究課題の検証に向けて、大きな回り道は避けたいものです。したがって、研究計画が不可欠となります。研究計画では、最終のゴールが設けられており、それに至るまでに取り組むべき内容が時間経過とともに示されます。研究経費が使える場合には、予算配分を、複数の人たちと共同研究する場合には、それらの方の役割を示したりします。複数人数の場合、研究計画に関する共通理解やコミュニケ

ーションが重要です。

研究計画では、最終ゴールに至る小目標を具体的に示すこと、それらを適切な時間経過に位置付けることが大切です。研究は一気に片づくものではありません。例えば質問紙調査を行うにしても、質問紙作成に関する資料収集・分析、質問紙の検討と作成、調査の依頼、調査の実施、データの収集と分析、分析結果の考察とまとめ、報告書の作成など、様々の小目標が、順に、あるいは並行して設けられます。このような小目標は、個人や関係者で進捗状況を確認するための節目になります。研究計画は、多くの場合、予定より遅れてしまいます。予期せぬトラブル、調査依頼先の事情などあるためです。計画にはゆとりを持たせてください。

7) 倫理的配慮

最近の研究では、倫理的配慮が不可欠です。本稿を作成した6年前に比べると、格段に厳しくなっています。学会誌への投稿論文では、所属機関等の研究倫理委員会の承認が前提となる場合も見られます。具体的配慮については、研究課題、扱うデータの種類、所属する機関や学会などによって変わります。例えば、調査研究の場合の配慮として、調査対象校の管理職や教職員、保護者等への調査内容や方法に対する説明と承諾、無記名式の採用、調査拒否を可とすることの明示、回収のための密封用封筒の使用など挙げられます。詳しくは、所属機関の倫理委員会、学会、身近にいる大学教員、管理職などに相談してください。

